［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月17日

【評価実施概要】

事業所番号	3071200939
法人名	社会福祉法人 渉久会
事業所名	グループホーム桃の庵
所在地 （電話番号）	和歌山県紀の川市桃山町最上843-1 （電 話）0739-66-2254

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山市手平2丁目1－2		
訪問調査日	平成20年5月27日	評価確定日	平成20年6月 日

【情報提供票より】（20年4月28日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成14年5月1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	18 人	常勤 12人，非常勤 6人，常勤換算 8．3人

（2）建物概要

建物形態	併設／単独	新築／改築
建物構造	造り	
	階建ての 階 ～ 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	29,500 円		その他の経費（月額）	円
敷 金	有（ 円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 950円			

（4）利用者の概要（4月28日現在）

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	1	名	要介護2	5	名
要介護3	7	名	要介護4	3	名
要介護5	1	名	要支援2	0	名
年齢 平均	87.5 歳	最低	80 歳	最高	100 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	しまだ内科クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

まわりを桃畑に囲まれた緑豊かな地域にあり、季節の移ろいを肌で感じることができる。ホームは純和風建築で、天井が高く広々としており、ゆったりと過ごせる空間である。職員はセンター方式の様式を使用し、一人ひとりの意向や思いを把握することに努め、きめ細やかなケアに活かしている。また、運営者がタンクで温泉の湯を運び、利用者が入浴を楽しめるよう支援する等、運営者と職員が上手く連携を取り質の向上に繋げている。利用者ひとりひとりの表情が豊かで、生活を楽しむ様子が伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回の評価の要改善点である「的確な申し送り」については業務日誌や申し送り記入帳の充実により、「応急手当」については事故防止、急変時の対応等についてそれぞれのマニュアルの整備により改善されている。また、学習を通じて職員の力量アップを図っている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 全職員が自己評価に関わり管理者がまとめた。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** メンバーは家族、地区長、市職員、地域包括支援センター職員等で構成されている。主に事業所の活動報告を行っているが、メンバーは積極的に関わっており、災害時のアドバイス等の意見もあり、運営への反映が期待される。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 意見等を求めると「今のままでよい、よくやってもらっている」と、満足している様子がうかがえる。職員はさらに質向上に活かすため、意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 近隣は桃畑が広がっており民家はほとんどなく、日中は農作業をしている人に挨拶する程度で地域との交流はなかなか難しい。地域との連携を深めるためにも自治会への加入が望まれる。運営推進会議のメンバーである地区長がパイプ役となっており今後に期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく、楽しく、ほっとできる暮らし」という独自の理念を開設以来守り続けている。	○	制度改正により地域との関係が重視されるようになり、これまでの理念に地域密着型サービスとしての役割を加えることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送りの際など常々理念の確認を行い、共有し日々の業務に取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所周りは桃畑で日中は農作業している人と挨拶をする程度で地域との交流は少ない。	○	交流人口が少ないこともあり、自治会に加入する事等で地域活動の機会を増すことが望まれる。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価は、その意義を理解して全職員で取り組み、それを管理者がまとめた。	○	自己評価、外部評価の定期的な取組みと活用が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、事業所についての理解を深めてもらう為の情報提供を行っている。参加者からは協力的な提案をいただきサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議により、行政担当とも馴染みができ、ともにサービス向上に取り組むべき関係ができつつある。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者の近況報告を、また金銭管理については月1回報告している。ホーム便りについては、個人情報にふれる部分を考慮して現在休止中であったが形を変えて再発行を計画している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を求めると「現状のままでよい」との満足している様子がうかがえる意見である。職員はさらに質向上に活かすため、意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力抑えられており、退職する職員が出た際は全職員でフォローし、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修（職員会議の中での勉強会）は全員で行っている。県グループホーム連絡会の新人研修へ参加しての勉強会や、法人内部での感染症講習会、消防の研修などは職員が順番に参加して資質向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会の中で管理者ネットワークを作り、日頃の悩み等話し合い、学びながらサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と連絡を取りながら協力を得て徐々に馴染めるよう支援している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	センター方式により、利用者のできること、できないことの把握に努めている。できることを積極的に引き出し、生活の中で職員は利用者から学ばせて頂く姿勢で、共に支え合う関係を作っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を改良したものを使用して思いや意向を把握することに努め、その人らしい生活が送れるよう支援している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当を決めているが、介護計画は職員全員参加で作成している。利用者に変化があれば声を出し合って計画作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは3ヶ月に1回、ただし生活状況の変化があればその都度見直している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	季節ごとに花見や年始に神社へ詣でるなど利用者の要望に応じて柔軟な支援をしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診が月1回有り、また外部の病院にも事業所から付き添って行くなど、納得のいく医療が受けられるような体制をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族からは看取りを希望する声があり、事業所としてホームでの看取りを検討している。	○	重度化や終末期の看取りについて本人、家族や関係者と方針を共有するための話し合いが望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導には周りに配慮した言葉で声かけを心掛ける等、プライバシーに配慮している。また個人情報についての記録書類などは管理者や看護師が管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式のパターンシートから見えた一人ひとりの生活ペースを尊重してゆったりと過ごしてもらえるよう支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の好きな人、片づけの好きな人、利用者それぞれに得意分野があって食事に関わっている。また職員もさりげない介助をしながら共に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人の体調に合わせ医師の指導のもと、最低週2回入浴している。希望により、さらに入浴する人もいる。運営者がタンクで温泉の湯を運び、蛇口から温泉の湯が出るように改造する等、入浴を楽しめるよう支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、絵手紙、カラオケ等、個々の得意な分野で力を発揮できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見や夏祭り等の季節ごとのイベントや、日常の買い物など戸外に出かけられるよう支援している。また畑や玄関の前のベンチでの外気浴等で気分転換を図ったりもしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	無断外出による行方不明事故防止のため常時施錠している。暗証番号により開錠できるシステムをしている。	○	常時施錠するのではなく、日中の数時間でも鍵をかけない工夫を全職員で取り組むことが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の立ち会いの中、夜間想定も含めての避難訓練をしている。運営推進会議では地区長よりの防災に関するアドバイスもいただくなど地域の協力も得られるようになってきている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックシートに食事量、水分摂取量などが一目でわかるように細かく記載され、個々に応じた支援がなされている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く広々として明るい。窓の外は桃畑が広がり、四季折々の変化が感じられる中で静かにゆったりと過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には位牌を持ち込まれている方、家族の手土産のぬいぐるみ、愛読書等好みのものに囲まれそれぞれに安心して過ごせるように工夫している。		